

## 平成 28 年度 看護系学会等社会保険連合研究助成 研究報告要旨

日本糖尿病教育・看護学会：米田昭子

2008年に糖尿病合併症管理料が新設され、フットケアの効果としてのエビデンスが蓄積されつつある。その多くは、足潰瘍発症率や足切断率、患者の行動や知識などが評価指標とされ、看護独自の視点であるところの患者が専門家に相談したり、協力を得たりして、自分でセルフモニタリングや、自己評価や自己強化しながら、予防や療養目的でフットケアを実行するといったセルフマネジメントについては、十分に評価されていない現状があった。

そこで、日本糖尿病教育・看護学会研修推進委員会は、看護師の実践知を集約し、より実践に即した患者のセルフマネジメントに視点をあてたフットケアの評価尺度を開発する目的で研究に取り組むこととした。

まず、糖尿病看護認定看護師と慢性疾患看護専門看護師9名へのフットケアの実践についてインタビュー（山梨県立大学看護学部及び看護学研究科研究倫理審査委員会 承認番号1404）し、外来糖尿病患者のフットケアにおけるセルフマネジメントの評価視点を質的に明らかにし、それを基に評価尺度の原案を作成した。

その内容的妥当性については、フットケア標準プログラムの研修を企画・運営する糖尿病看護認定看護師と慢性疾患看護専門看護師10名へのフォーカスグループインタビューによって検証が済みであり（山梨県立大学看護学部及び看護学研究科研究倫理審査委員会 承認番号1504）、表面妥当性については、フットケアのブラッシュアップ研修に参加した40名の看護師を対象に検証が済んでいる。さらに、糖尿病看護認定看護師3名、慢性疾患看護専門看護師4名、日本糖尿病療養指導士2名、地域糖尿病療養指導士1名に、実際の患者17名へのフットケア時に評価尺度案を試用してもらい、その実用可能性についても検討したうえで、必要な改定を加えてきた。

本研究は、尺度開発の最終段階として、フットケアを実践する認定看護師、専門看護師を対象に、糖尿病患者へのフットケアの臨床場面で、この評価尺度案の性能を計量心理学的に検証することを主な目的とした。（山梨県立大学看護学部及び看護学研究科研究倫理審査委員会 承認番号1601）

期待される研究成果は、本尺度開発により、実践現場における一人一人の患者のセルフマネジメントの変化を評価することができるとともに、「糖尿病合併症管理料」の適正な評価のためのエビデンスが蓄積される。ひいては、我が国の糖尿病患者へのフットケアの質の向上、足病変予防の加速、医療費削減にもつながると考えられる。

本研究の対象者は、研究者らが開発した評価尺度案を用いて糖尿病患者へのフットケアを実践する看護師で、現在、糖尿病合併症管理料の算定に従事している認定看護師、慢性疾患看護専門看護師とした。評価対象者は、看護師からフットケアを受ける20歳以上の糖尿病患者とした。

研究の同意は、研究対象者とその所属先の施設長及び、看護部長に依頼状を送付し、書面で同意を得た。評価対象者には、研究対象者が説明し書面で得た。

調査方法は、研究者から評価尺度案、患者情報用紙、看護師情報用紙、セルフケア測定用紙を郵送し、研究対象者（看護師）が所属する医療施設の外来で、評価対象者（糖尿病患者）へフットケアを実施する際に、それらの用紙に記入した。

分析方法は、すべての測定値の分布を、連続変数は平均値と標準偏差、質的変数は割合で記述した。評価尺度案の各項目の回答分布については、歪度、尖度、天井効果、床効果を確認した。評価尺度案の因子構造については、回答分布や、項目内容の臨床的重要性などから、探索的因子分析を行った。妥当性、信頼性についても確認した。

データ収集の状況は、平成29年3月30日現在、23施設、24人の研究対象者から、104例の評価対象者のデータが収集されている。現在、収集後のデータを入力中であり、さらに分析と考察を進めている。